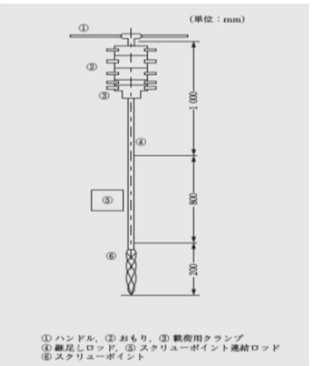



『地盤調査の方法と解説(2012年度版)』正誤表

2014年(平成26年)2月26日作成
2023年8月23日更新(「訂正の反映」列を更新)

「訂正の反映」列に 訂正第○刷と記載がある場合、該当の刷りでは訂正が反映済みです。お手元の書籍の刷り数は奥付で確認できます。空欄の場合は、どの刷りでも修正されていません。

| ページ | 訂正の反映 | 段・行・特定の位置 | 訂正箇所(誤) | 訂正内容(正) |
|-----|--------------|-----------------------------------|--|--|
| 1 | 訂正第2刷(2014年) | 図-1.1.2 調査方法の種別—詳細調査—「現地計測」の枝のところ | ※空欄 | 地下水位変動観測:第7編 |
| 6 | 訂正第2刷(2014年) | 表-2.1.3 | 高压ガス取締法 | 高压ガス保安法 |
| 61 | 訂正第2刷(2014年) | JGS 3811基準の英文名 | classification | classification |
| 110 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 25行目 | 注記 見かけ比抵抗曲線及び自然電位曲線の例を、図4に示す。 | ※1行削除 |
| 170 | 訂正第2刷(2014年) | 表-2.2.1 下から5行目 | JGS 1421 孔内水平載荷試験方法 | JGS 1531 地盤の指標値を求めるためのプレッシャーメータ試験 JGS 3831 地盤の物性を評価するためのプレッシャーメータ試験 JGS 3532 ボアホールジャッキ試験 ※上記3件の基準に置き換える。ボーリング孔径の欄はφ86、φ88、φ116に○、φ150以上に△を追加、対象の欄は「孔壁」。 |
| 308 | 訂正第2刷(2014年) | 右段 3行目 | 柔らかい(soft) | 軟らかい(soft) |
| 308 | 訂正第2刷(2014年) | 表-2.5.4 コンステンシー欄1. 2行目 | 非常に柔らかい 柔らかい | 非常に軟らかい 軟らかい |
| 308 | 訂正第2刷(2014年) | 図-2.5.26 図の右上端 | 固結した | 固結した |
| 310 | 訂正第2刷(2014年) | 表-2.5.6 「砂岩・礫岩・深成岩類」—「内部摩擦角」の欄 | 25.3 logN+29.3 | 5.10 logN+29.3 |
| 325 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 下から3行目 | これらの引用規格は、この最新版～ | この引用規格は、この最新版～ |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 11行目 | 貫入開始後50N、150N、～ | 50N、150N、～ |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 19行目 | 試験装置及び器具は、次による。 | 4.1 スウェーデン式サウンディング試験装置 |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 22行目 | ～回転数と貫入量との関係が求められるもの。 | ～回転数と貫入量との関係が求められるものとする。 |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 23行目 | a) スクリューポイント | 4.2 スクリューポイント |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 24、25行目 | ～図1に示す形状のもの。図1に示す寸法及び角度は、すべて±1%の許容差を含む。 | ～図1に示す形状のものとする。図1に示す寸法及び角度は、全て±1%の許容差を含む。 |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 26行目 | b) ロッド | 4.3 ロッド |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 28行目 | ～ごとに日盛があるもの。 | ～ごとに日盛があるものとする。 |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 29、30行目 | 1) スクリューポイント連結ロッド 径 19±0.2 mm、長さ 800±0.8 mm、スクリュー連結部から 50 mm の位置に日盛があるもの。 | a) スクリューポイント連結ロッド 径 19±0.2 mm、長さ 800±0.8 mm、スクリュー連結部から 50 mm の位置に日盛があるものとする。 |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 31行目 | 2) 継足しロッド 径 19±0.2 mm、長さ 750±0.8 mm 又は 1 000±0.8 mm | b) 継足しロッド 径 19±0.2 mm、長さ 750±0.8 mm 又は 1 000±0.8 mm |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 32行目 | c) 載荷装置 | 4.4 載荷装置 |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 34行目 | 図2に載荷用クランプを示す。 | 図2に載荷用クランプの例を示す。 |
| 326 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 35行目 | おもりは図3に示す鋼鉄製のものを。 | 図3に示すおもりの例は鋼鉄製のものを。 |
| 327 | 訂正第2刷(2014年) | 図4 | ※図の差し替え  | ※「④添板」の追加 「スクリューポイント」の形状  |
| 327 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 下から8行目 | ～すべて±2%の許容差を含む。 | ～全て±2%の許容差を含む。 |
| 327 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 下から7行目 | d) 回転装置 | 4.5 回転装置 |
| 327 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 下から5行目 | ～60半回転数程度で制御できるものとする。なお、機械化されたものについては、規定荷重や回転機能が検定された装置を～ | ～60半回転数程度以下で制御できるものとする。なお、機械化されたものについては、規定荷重又は回転機能が検定された装置を～ |
| 327 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 下から4行目 | ～半自動(回転のみが機械式)に自動で～ | ～半自動(回転だけが機械式)に自動で～ |

| ページ | 訂正の反映 | 段・行・特定の位置 | 訂正箇所(誤) | 訂正内容(正) |
|-----|--------------|-----------|------------------|------------------|
| 327 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 下から1行目 | ～回転数は付属する～ | ～回転数は附属する～ |
| 328 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 2行目 | e) 引抜き装置 | 4.6 引抜き装置 |
| 328 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 3行目 | 引抜き装置は、試験が終了した後～ | 引抜き装置は、試験が終了した後～ |
| 328 | 訂正第2刷(2014年) | 基準 4行目 | f) 記録用具又は記録装置 | 4.7 記録用具又は記録装置 |

| ページ | 訂正の反映 | 段・行・特定の位置 | 訂正箇所(誤) | 訂正内容(正) |
|---------|--------------|-------------------------------------|---|--|
| 328 | 訂正第2副(2014年) | 基準 7, 8行目 | 1)各荷重段階での荷重及び貫入量を記録できる。 2)半回転数及びそれに伴う貫入量を記録できる。 | a)各荷重段階での荷重及び貫入量を記録できる。 b)半回転数及びそれに伴う貫入量を記録できる。 |
| 328 | 訂正第2副(2014年) | 基準 31行目 | j)以下の状態が確認された場合は測定を終了について検討する。 | j)次の状態が確認された場合は測定を終了について検討する。 |
| 328 | 訂正第2副(2014年) | 基準 36行目 | ～引抜き装置によってロッドを 引抜き , その本数を点検し～ | ～引抜き装置によってロッドを 引き抜き , その本数を点検し～ |
| 328 | 訂正第2副(2014年) | 基準 43行目 | c)貫入量 1 m 当たりの値は, 次の式で計算し, JIS Z 8401(数値の丸め方)によって有効数字2桁まで表示する。 | c)貫入量 1 m 当たりの値は, 次の式で計算し, 小数点第一位を四捨五入し表示する。 |
| 328 | 訂正第2副(2014年) | 基準 46～48行目 | N_{5W} : 貫入量 1 m 当たりの半回転数 N_s : L の長さの貫入に要した半回転数 L : 貫入量(m) $L=0.25$ m の場合は $N_{5W}=4N_s$ | N_{5W} : 半回転数 N_s を貫入量 1 m 当たりに換算した半回転数 N_s : 貫入量 L に要した半回転数 L : 貫入量(m) ※ $L=$ 以下を削除 |
| 329 | 訂正第2副(2014年) | 基準 2, 3行目の間 | ※一行追加 | なお, *が付いているものについては, 必須事項である。その他のものについては, 必要に応じて記録を行えばよい。 |
| 329 | 訂正第2副(2014年) | 基準 3～11行目, a)～j)の細目番号の後ろ | a) 調査件名 b) 試験年月日 c) 地点番号 ... j) 静的貫入抵抗($W_{5W}(N)$, N_{5W})の深さ分布図 | a) * 調査件名 b) * 試験年月日 c) * 地点番号 ... j) * 静的貫入抵抗($W_{5W}(N)$, N_{5W})の深さ分布図 |
| 329 | 訂正第2副(2014年) | 基準 11, 12行目の間 | ※一行追加 | j) その他特記すべき事項 |
| 399 | | データシートの記入例 規格・基準番号 | JIS A 1435 | JGS 1435 |
| 401-402 | | データシートの記入例 規格・基準番号 | JIS A 1220 | JGS 1435 |
| 403 | | データシートの記入例 規格・基準番号 | JIS A 1435 | JGS 1435 |
| 454 | 訂正第4副(2020年) | 左段 下から9行目 | $f_{t(50)} = P_{(50)} / 25$ | $f_{t(50)} = P_{(50)} / 2500$ |
| 509 | 訂正第2副(2014年) | データシートの記入例 試験名 | ボーリング孔を利用した砂質・礫質地盤の地下水位の測定方法 | ボーリング孔を利用した砂質・礫質地盤の地下水位の測定 |
| 607-609 | 訂正第2副(2014年) | データシートの記入例 試験名 | 単孔を利用した透水試験方法(非常試験/直線勾配法) | 単孔を利用した透水試験(非常試験/直線勾配法) |
| 610 | 訂正第2副(2014年) | データシートの記入例 試験名 | 締め固めた地盤の透水試験方法 | 締め固めた地盤の透水試験 |
| 611 | 訂正第2副(2014年) | データシートの記入例 下方の式 | $k = \frac{(2.3d_s)^2}{8L} \log_{10} \left(\frac{GL}{D} \right) a$ | $k = \frac{(2.3d_s)^2}{8L} \log_{10} \left(\frac{2L}{D} \right) a$ |
| 619 | 訂正第2副(2014年) | 基準 7行目(A.1 b)) | トレーサー投入直後(0分)の電気抵抗と各測定時間の電気抵抗との差(電気抵抗変化量)を, 各測定点について計算する。 | トレーサー投入直後(0分)と各測定時間との電気抵抗値(若しくは比抵抗値)の差(電気抵抗変化量と呼ぶ)を, 各測定点について計算する。 |
| 629 | 訂正第2副(2014年) | 解説 図-4.3.1キャプション | 孔内水位が深い場合の比抵抗測定による方法と温度測定による方法の対比(竹内 ²⁾) | 図-4.3.1 孔内水位が深い場合の電気抵抗測定による方法と温度測定による方法の対比(竹内 ²⁾ に加筆修正) |
| 657 | 訂正第2副(2014年) | データシートの記入例 試験名 | トレーサーによる地下水流動検層(電気抵抗測定法) | トレーサーによる地下水流動層検層(電気抵抗測定法) |
| 657 658 | 訂正第2副(2014年) | データシートの記入例 試験名 | トレーサーによる地下水流動検層(温度測定による方法) | トレーサーによる地下水流動層検層(温度測定による方法) |
| 658 659 | 訂正第2副(2014年) | データシートの記入例 試験名 | トレーサーによる地下水流動検層(温度測定による方法) | トレーサーによる地下水流動層検層(温度測定による方法) |
| 661 | 訂正第2副(2014年) | 左段 上8-9行目 | ～地盤に与える載荷応力と地盤の変形～ | ～地盤に与える載荷圧力と地盤の変形～ |
| 661 | 訂正第2副(2014年) | 左段 上22行目 | 「規格票の様式および作成方法(JISZ8301)」 | ※フォントを「ゴシック体」に |
| 662 | 訂正第2副(2014年) | 表-8.1.1 平板載荷試験の試験方法の主な適用の枠の5行目 | 支持力管理 ※カガカナの「か」 | 支持力管理 |
| 662 | 訂正第2副(2014年) | 表-8.1.1 平板載荷試験の載荷方法の枠の1行目 | ・直径300cm | ・直径300mm |
| 662 | 訂正第2副(2014年) | 表-8.1.1 道路の平板載荷試験の試験方法の主な適用の枠の5-6行目 | ・品質管理 ^{6), 7)} | ・品質管理 ^{6), 7)} |
| 662 | 訂正第2副(2014年) | 表-8.1.1 道路の平板載荷試験の載荷方法の枠の1行目 | ・直径300, 400又は750mmの | ・直径300, 400又は750mmの載荷板 |
| 662 | 訂正第2副(2014年) | 表-8.1.1 現場CBR試験の対象地盤の枠の1行目 | 道路, 滑走路地盤 | 道路, 滑走路, 地盤 |
| 662 | 訂正第2副(2014年) | 表-8.1.1 下方左の欄(縦書) | 規格基準以外の試験 | 規格・基準以外の試験 |
| 667 | 訂正第2副(2014年) | 基準 下から19行目 | ～クリープ量を測定時間1分と30秒に対応する～ | ～クリープ量を孔壁圧力保持時間(1分又は2分)と測定時間1分と30秒に対応する～ |
| 667 | 訂正第2副(2014年) | 基準 下から19行目 | ～クリープ量を孔壁圧力保持時間(1分又は2分)と測定時間30秒に対応する～ | ～クリープ量を孔壁圧力保持時間(1分又は2分)と測定時間1分と30秒に対応する～ |
| 692 | | 左段 式(2.6.24), (2.6.25)内の記号 | ρ ρ_0 ρ_s $m-1/m$ | ρ' ρ'_0 ρ'_s $(m-1)/m$ |
| 692 | | 左段 式(2.6.25)内の指数 | $n+1/n$ $m/m-1$ | $(n+1)/n$ $m/(m-1)$ |
| 692 | | 左段 式(2.6.25) | $b_3 = (1 - 2\nu') \left(\frac{m+1}{m+n} \right) (\rho'_t - \rho'_0)$ | $b_3 = (1 - 2\nu') \left(\frac{m+1}{m-1} \right) (\rho'_t - \rho'_0)$ |
| 692 | | 右段 式(2.6.25)続き | $\sin\psi' = \frac{\sin\phi' - \sin\phi'_t}{1 - \sin\phi' \cdot \sin\phi'_t}$ | $\sin\psi' = \frac{\sin\phi' - \sin\phi'_t}{1 - \sin\phi' \cdot \sin\phi'_t}$ |

| ページ | 訂正の反映 | 段・行・特定の位置 | 訂正箇所(誤) | 訂正内容(正) |
|-----|--------------|--------------------------------------|--|---|
| 692 | | 右段 式(2.6.25)下の文章 | ρ :応力 (MN/m ²) ρ_0 :初期応力 (MN/m ²) ρ_1 :降伏応力 (MN/m ²) ϕ :残留摩擦角(°) 残留摩擦角 ϕ は未定であるが、 ϕ の影響度は低いので、 $\phi=2/3 \phi'$ と仮定する。 | ρ :有効応力 (MN/m ²) ρ_0 :初期応力 (MN/m ²) ρ_1 :降伏応力 (MN/m ²) ϕ :残留摩擦角(°) ϕ' :残留摩擦角(°) $(=c' \cos\phi' + \rho_0' (\sin\phi' + 1))$ ※Gの下から移動 残留摩擦角 ϕ は未定であるが、 ϕ の影響度は低いので、 $\phi=2/3 \phi'$ と仮定する。 |
| 696 | 訂正第2刷(2014年) | 図表-2.5.1 データシートの記入例 ページ中ほどの吹き出し | スタンドパイプ 1' 読み-30° 読み | スタンドパイプ 2' 読み-30° 読み |
| 696 | | 図表-2.5.1 データシートの記入例 「メーター支持圧力」の列 1行目 | 0 設置時初期圧 ρm_0 | 0 設置時初期圧 |
| 696 | | 図表-2.5.1 データシートの記入例 「スタンドパイプ」の列 1行目 | 初期値 (Vm_0) または (Hm_0) | 設置時初期値 |
| 696 | | 図表-2.5.1 データシートの記入例 特記事項欄 | Hm を計測、 $\Delta H = (Hm)_{2'} - (Hm)_{30'}$ | Hm を計測、 $\Delta H = (Hm)_{1'} - (Hm)_{30'}$ |
| 696 | | 図表-2.5.1 データシートの記入例 特記事項欄 | $\Delta r = \{ (Hm)_{2'} - (Hm)_0 \} \times$ 校正係数 | $\Delta r = \{ (Hm)_{1'} - (Hm)_0 \} \times$ 校正係数 |
| 696 | | 図表-2.5.1 データシートの記入例 特記事項欄 | ※1行追加 | ここに、(Vm_0) および (Hm_0) は初期値(設置前) |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 上8行目 | ・JIS A 1215「道路の平板載荷試験」 | ・JIS A 1215「道路の平板載荷試験方法」 ※フォントを“ゴシック体”に |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 上9行目 | ・JIS A 1222「現場CBR試験」 | ・JIS A 1222「現場CBR試験方法」 ※フォントを“ゴシック体”に |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 上11行目 | ・JGS 1521「平板載荷試験方法」 | ※フォントを“ゴシック体”に |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 上13行目 | 「地盤の平板載荷試験(JGS 1521)」 | 「地盤の平板載荷試験方法(JGS 1521)」 ※フォントを“ゴシック体”に |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 上15-16行目 | 「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験(JGS 3521)」 | 「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法(JGS 3521)」 ※フォントを“ゴシック体”に |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 上16-17行目 | 「平板載荷試験(JGS 1521)」 | 「平板載荷試験方法(JGS 1521)」 ※フォントを“ゴシック体”に |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 上20-21行目 | 「地盤の平板載荷試験方法(JGS 1521)」 | ※フォントを“ゴシック体”に |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 上21-22行目 | 「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法(JGS 3521)」 | ※フォントを“ゴシック体”に |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 上23行目 | 「平板載荷試験方法(JGS 1521)」 | ※フォントを“ゴシック体”に |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 上35-36行目 | JSF T 25-81「地盤の平板載荷試験方法」 | ※フォントを“ゴシック体”に |
| 697 | 訂正第2刷(2014年) | 右段 上13-14行目 | JGS 3521「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験」 | ※フォントを“ゴシック体”に |

| ページ | 訂正の反映 | 段・行・特定の位置 | 訂正箇所(誤) | 訂正内容(正) |
|------|--------------|---------------------|---|---|
| 697 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上15-16行目 | 「地盤の平板載荷試験方法(JGS 1521)」 | ※フォントを “ゴシック体” に |
| 697 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上16-17行目 | 「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法(JGS 3521)」 | ※フォントを “ゴシック体” に |
| 697 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上30-31行目 | JIS Z 8301-2008「規格票の様式および作成方法」 | ※フォントを “ゴシック体” に |
| 697 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上41-42行目 | JGS 3521「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法」 | ※フォントを “ゴシック体” に |
| 698 | 訂正第2副(2014年) | 左段 上2行目 | JIS A 1215「道路の平板載荷試験方法」 | ※フォントを “ゴシック体” に |
| 706 | 訂正第2副(2014年) | 左段 上8行目 | JIS A 1215「道路の平板載荷試験方法」 | ※フォントを “ゴシック体” に |
| 706 | 訂正第2副(2014年) | 左段 上10行目 | 「地盤の平板載荷試験(JGS 1521-2003)」 | 「地盤の平板載荷試験方法(JGS 1521-2003)」 ※フォントを “ゴシック体” に |
| 706 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上12-13行目 | 「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験(JGS 3521-2003)」 | 「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法(JGS 3521-2003)」 ※フォントを “ゴシック体” に |
| 714 | 訂正第2副(2014年) | 左段 上1行目 | 直径30cmの円板 | 直径300mmの円板 |
| 714 | 訂正第3副(2016年) | 左段 上11行目 | $0.3 \gamma_r N_r S_r$ | $0.3 B \gamma_r N_r S_r$ (数式にBを追加) |
| 714 | 訂正第2副(2014年) | 左段 上29行目 | 0.3m程度の小さな載荷板 | 300mm程度の小さな載荷板 |
| 716 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上21行目 | JIS A 1215「道路の平板載荷試験」 | JIS A 1215「道路の平板載荷試験方法」フォントを “ゴシック体” に |
| 718 | 訂正第2副(2014年) | 6.報告 1行目 | ～、必ず(須) | 必須 |
| 718 | 訂正第2副(2014年) | 6.報告 12行目 | ～最少目盛り | 最少目盛 |
| 718 | 訂正第2副(2014年) | 6.報告 13行目 | ～最少目盛り | 最少目盛 |
| 723 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上17行目 | JIS A 1211「路床土支持力比(CBR)試験」 | ※フォントを “ゴシック体” に |
| 723 | 訂正第3副(2016年) | 右段 上17行目 | JIS A 1211「路床土支持力比(CBR)試験」 | JIS A 1211「路床土支持力比(CBR)試験方法」 |
| 723 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上25行目 | JIS A 1211「CBR試験」 | JIS A 1211「CBR試験方法」 ※フォントを “ゴシック体” に |
| 723 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上26行目 | JIS A 1222「現場CBR試験」 | JIS A 1222「現場CBR試験方法」 ※フォントを “ゴシック体” に |
| 723 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上38-39行目 | JIS Z 8301-2008 | ※フォントを “ゴシック体” に |
| 724 | 訂正第3副(2016年) | 2行目 | (JIS Z 8301:2008) | (JIS Z 8301:2011) |
| 724 | 訂正第2副(2014年) | 4.1a)載荷装置 図1 | 反力 | 反力装置 |
| 726 | 訂正第2副(2014年) | 7.報告 1行目 | ～、必ず(須) | 必須 |
| 727 | 訂正第2副(2014年) | 右段 下8行目 | JIS A 1203「土の含水比試験方法」 | ※フォントを “ゴシック体” に |
| 729 | 訂正第4副(2020年) | 左段 式(3.4.7) | $E=1\ 960 \times \text{設計CBR} (\text{MN}/\text{m}^2)$ | $E=2.0 \times \text{設計CBR} (\text{MN}/\text{m}^2)$ |
| 729 | 訂正第4副(2020年) | 左段 式(3.4.8) | $E=3\ 920 \times \text{設計CBR} (\text{MN}/\text{m}^2)$ | $E=4.0 \times \text{設計CBR} (\text{MN}/\text{m}^2)$ |
| 729 | 訂正第2副(2014年) | 右段 上1行目 | $E=(4.9\sim 9.8) \times \text{CBR}$ | $E=(4.9\sim 9.8)\text{CBR}$ ※フォントを調整させる |
| 760 | 訂正第2副(2014年) | 左段 10行目と11行目の間 | ※4行追加 | $q_u=98.1(-3.6+1.3f_c)$ (5.3.10) また、これら以外に固化材を添加した改良土の一軸圧縮強さ $q_u(\text{kN}/\text{m}^2)$ と f_c との関係式も求められている。 $q_u=98.1(-1.20+0.34f_c)$ (5.3.11) |
| 772 | 訂正第2副(2014年) | 注記3 2行目 | 校正時の含水比や粒度から | 校正時の含水比又は粒度から |
| 774 | 訂正第2副(2014年) | 7.報告2行目 | 必ず(須)の | 必須の |
| 984 | 訂正第2副(2014年) | 図-11.3.1 図の右側 | 左側 | 右側 |
| 988 | 訂正第2副(2014年) | 図-11.3.7 下部説明の箇条1行目 | ・括弧内の記号は図-10.10.7を参照 | ※本行を削除 |
| 994 | 訂正第2副(2014年) | 左段 下から17行目 | (1) 軟弱地盤における計測事例 ⁽⁴⁾ | (2) 軟弱地盤における計測事例 ⁽⁴⁾ |
| 997 | 訂正第2副(2014年) | 左段 10行目 | 我國の | 我が國の |
| 998 | 訂正第2副(2014年) | 左段 15行目 | 物質の存在形態 | 汚染物質の存在形態 |
| 998 | 訂正第2副(2014年) | 左段 17行目 | 地層の構造特定 | 地層の構造の特定 |
| 1003 | 訂正第2副(2014年) | 右段 2行目 | 汚染除去等の措置 | 汚染の除去等の措置 |
| 1016 | 訂正第2副(2014年) | 右段 17行目 | 一次近似 | 一次元近似 |
| 1018 | 訂正第2副(2014年) | 左段 6行目 | $h_{eq}=h_{ps}+h_{cm}$ | $h_{eq}=h_{ps}+h_{cgs}$ |
| 1021 | 訂正第2副(2014年) | 左段 14行目 | ～異なる細粒砂と粗粒砂を、細粒砂を粗粒砂～ | ～異なる細粒砂を粗粒砂～ |
| 1021 | 訂正第2副(2014年) | 右段 下から9行目 | 続土・壤・予測・ | 続土・壤・予測・ |
| 1043 | 訂正第2副(2014年) | 左段 10行目 | ただし、他の手法～ | また、他の手法～ |

| ページ | 訂正の反映 | 段・行・特定の位置 | 訂正箇所(誤) | 訂正内容(正) |
|------|--------------|--------------------|------------------|-----------------------|
| 1075 | 訂正第2刷(2014年) | 下から9行目 | 5.1.2 | 6.1.2 |
| 1087 | 訂正第2刷(2014年) | 右段 下から7行目 | 動水勾配 | 動水勾配 i |
| 1087 | 訂正第2刷(2014年) | 右段 下から8行目 | $V=K_d/\mu_{cr}$ | $V=K_d/\mu_{cr}$ |
| 1087 | 訂正第2刷(2014年) | 図-10.3.2, 図-10.3.3 | 測定区 | 測定区間 |
| 1089 | 訂正第2刷(2014年) | 左段 4行目 | 曝露 | 曝露 ※他の章で「曝露」で統一しているため |